

【2024 年度地域連携事業費報告書】

「寄合いワークショップ」手法を活用した掛川市千浜区住民と「ふくしあ」との協働による住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる健康な地域づくり

代 表 者 ：三輪 真知子（看護学部）
連 携 機 関：掛川市地域包括ケア推進課

【背景】

地域包括支援センターは、2005（平成 17）年の介護保険法改正によって、高齢者のニーズや状態の変化に応じて必要なサービスが切れ目なく提供される「包括的かつ継続的なサービス体制」を確立させていく機関として創設された。市町村が設置主体となり、住民に健康保持、生活の安定のために地域における保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援することを目的としている（介護保険法 115 条の 46 第 1 項）。少子高齢化が進む中、医療・介護ニーズの増大や孤立等に対応し、地域包括ケアシステムを構築し、その推進を図ることが喫緊の課題となっている。

掛川市では、2010（平成 22）年から「掛川型地域包括ケアシステム」の核として掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」を市内 5 カ所に設置してきた。「ふくしあ」は、保健・医療・福祉・介護の多職種連携による在宅の総合支援を、高齢者だけでなく若い世代から支援の対象とし、行政が専門職とともにコーディネート役となり、地域と密接な関係を築くことで多職種連携の効果を高め、垣根のない支援体制を構築してきた。このことは地域包括ケアシステムのあり方として高く評価されている。

近年は、ハイリスクアプローチとしての個別支援と共にポピュレーションアプローチとしての健康な地域づくりに発展させるべく、「ふくしあ」と地域が直接つながる場として「地域元気の WA!」を開催している。「地域元気の WA!」は「住み慣れた地域で元気に暮らし続ける」を目指し、市内 5 カ所の「ふくしあ」において地区住民と「ふくしあ」職員が協働で実施している。

掛川市から「ふくしあ」におけるポピュレーションアプローチとして「地域元気の WA!」を地域の課題を解決する取り組みになるように発展させたいと相談があった。

そこで、本事業において「住民と行政が協働で行う地域づくり」として全国各地で地域再生を手がけている山浦晴男氏が開発した「寄合いワークショップ（以下 WS と略す）」手法を活用した健康な地域づくりを掛川市「南部大東ふくしあ」エリアである千浜地区をモデルとして実施することとなった。

【目的】

「いつまでも元気に安心して暮らし続けられることができる千浜地区」を目指し、地区住民と掛川市「南部大東ふくしあ」が協働で地区の課題や、地区の強みを活かした解決策を話し合うことで、共に課題解決に取り組むことである。

【方法・実施内容】

1. 対象
- 千浜地区まちづくり協議会会長が千浜地区区長会と相談して決定した者である。
6 区の区長、千浜地区の民生委員、福祉委員、一般住民等 30 人～40 人
2. 方法
- 事前調査と 2 回の WS 開催
- 1) 事前調査：
- (1) 大学教員と行政保健師さんが掛川市千浜地区の写真取材をする。
- (2) 大学教員と行政保健師が「外から見た資源写真地図」をする。

該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	■承認番号 (240033) □該当しない				
利益相反	■なし □あり ()				
発表状況	種 別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他 ()			
	年月日	2025 年 10 月 29～31 日 (□確定 ■予定)			

【2024 年度地域連携事業費報告書】

(3) 第1回寄り合いワークショップで「外からみた千浜地区」の説明をする。

2) WS開催

(1) 第1回WS

- 日 時：2024年11月11日（月） 18:30～21:00
- 場 所：掛川市千浜西コミュニティセンター
- 参加者：6区の区長、千浜地区の民生委員、福祉委員、一般住民等30人～40人
- 人 数：1Gが5人、最大6グループとする。
- 内 容：①WSの進め方とアウトプットの活かし方を説明（山浦氏）
- ②事例紹介（山浦氏）
- ③「外から見た資源写真地図」を説明（ファシリテーター）
- ④③を聞いて、地域の良さやアイデア、課題を自由に討議し、
「意見地図」を作成
- ⑤参加者は「意見地図」に出されている項目について重みづけをして投票
- ⑥付箋に無記名で感想を記述
- ⑦住民自らが「イラストアイデアカード」にイラスト（絵や図、マンガ等）を用いて、課題解決に向けたアイデアを描き、説明文をつける。1人3枚程度のイラストアイデアカードを次回までに作成

(2) 第2回WS

- 日 時：2024年12月3日（火）18:30～21:00
- 場 所：掛川市千浜西コミュニティセンター
- 参加者：6区の区長、千浜地区の民生委員、福祉委員、一般住民等15人～30人
- 内 容：①全員でイラストアイデアカードの内容を紹介しながら「高齢になっても住みやすい千浜地区イラストアイディア地図」を描き出す。
- ②「高齢になっても住みやすい千浜地区イラストアイディア地図」のどの内容から優先的に取り組むかの重みづけ（皆で投票・評価）
- ③実行計画案の作成
- ④具現化の取り組み（課題解決に向けての実践）の方向性の検討
- ⑤掛川市地域包括推進課作成アンケートに無記名で感想を記述

【結果・地域との連携の成果】

1. 事前調査結果（図1）

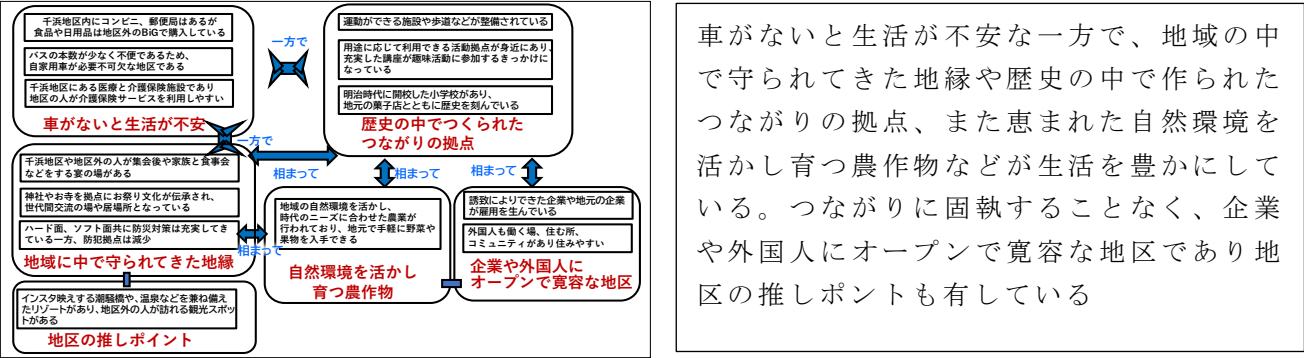


図1 外から見たいくつになっても暮らし続けられる千浜地区の姿

該当欄の□を■

倫理審査	■承認番号 (240033) □該当しない
利益相反	■なし □あり ()
発表状況	種 別 □著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他 ()
年月日	2025 年 10 月 29～31 日 (□確定 ■予定)

【2024 年度地域連携事業費報告書】

2. 第1回WS（図2～図5）

参加者：33人（住民22人・ふくしあ9人・学生2人）であった。

「いくつになっても暮らし続けられる千浜地区」問題・悩み・将来像は？についてグループに分かれて話し合い、皆の意見の全体像を意見地図として見える化し、意見に重要度をつけ投票した。



図2. 地区の問題・悩み、
願望について話し合う



図3. みんなの意見の全体像
に見える化



図4. 重要度を投票

1位	G：免許返納後の交通が課題	109点
2位	D：買い物の難民の増加	68点
3位	F：病院が少ない	52点
4位	E：近くに病院がなくなる	45点
5位	J：子弟の地元離れ	39点
6位	T：疲れる地区役員	31点
7位	B：生活関連施設が何もなくなるかも	30点
8位	P：高齢者が孤立しない地域づくり	22点
9位	S：外国人との交流	20点
10位	O：空き家の増加	19点
	N：若い世代が安心して生活する環境づくり	19点

図5. 「いくつになっても暮らし続けられる千浜地区」

問題・悩み・将来像の意見地図の投票結果

3. 第2回WS（図6～図9）

参加者：39人（住民29人・ふくしあ8人・学生2人）であった。

参加者各自で、重点課題の解決に向けて、やってみたいこと（アイデア）を、「イラストアイデアカード」に描き、説明文をつけ、アイデアカードを紹介し合いながら、課題の解決に向けた「アイデア地図」に見える化し、重要度をつけ投票した。

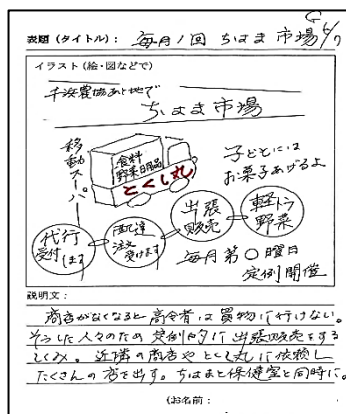


図6. 課題解決に向けたアイデアカードの一部

該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	■承認番号 (240033) □該当しない
利益相反	■なし □あり ()
発表状況	種 別 □著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他 ()
	年月日 2025年10月29～31日 (□確定 ■予定)

【2024 年度地域連携事業費報告書】



図 7. 「いくつになっても暮らし続けられる
千浜地区」イラストアイデア地図

1 位	F	地域で支える合法化白タクかバス	82点
2 位	G	移動販売による買い物支援	71点
3 位	I	月1回千浜保健室開催	55点
4 位	M	空き家の利活用	42点
5 位	J	病院の誘致	41点
6 位	C	自動運転にチャレンジ	38点
7 位	A	役員の魅力づくり	32点
7 位	P	外国人との交流の場づくり	32点
9 位	R	のみの市の開催	25点

図 8. 「いくつになっても暮らし続けられる千浜
地区」イラストアイデア地図の投票結果

投票の 評価 順位		アイデア項目	難 易 度 (A B C ラ ン ク)	緊急度 (実現目標) (○印の記入)			役割分担・主体 (誰がやるか) (主体者●、協 働者○印記入)			実 現 し た い 投 票 数	実 現 し た い 順 位	
				(1 年 以 内)	(2 〜 3 年)	中 期	(4 〜 5 年)	住 民	協 働			ふくしあ
1	F	地域で支える合法化 白タクかバス	A			○	●	○		93	2	
2	G	移動販売による買い物 支援	B		○		●			104	1	
3	I	月1 千浜保健室開催	B		○			○	●	72	3	
4	M	空き家の利活用	A			○		○	●	57	4	
5	J	病院の誘致	A			○			●	29	10	
6	C	自動運転にチャレンジ	A			○			●	34	9	
7	A	役員の魅力づくり	B		○		●			44	7	
7	P	外国人の交流場づくり	B		○		●	○		36	8	
9	R	のみの市の開催	B		○		●			56	6	
10	N	畑でサロン	B		○		●			57	4	

図 9. 実行計画

4. 2 回 SW 直後のアンケート結果（表 1～表 4・図 10）

配布は 39 人、回収数は 34 人、回収率は 87% であった。

表1 寄り合いワークショップに参加について					1			N=34人	人(%)
1 良かった	2 まあ良かった	3 あまり良くなかった	4 良くなかった	総計					
13(38)	20(59)	1(3)	0(0)	34(100)					
表2 寄り合いワークショップのような話し合いの場の必要性について								N=34人	人(%)
1 必要だと思う	2 やや必要だと思う	3 あまり必要だと思わない	4 必要だと思わない	総計					
17(50)	17(50)	0(0)	0(0)	34(100)					
表3-1 内容:今後の活動について、ふくしあと一緒に考える機会									
大いに思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計					
16(47)	15(44)	3(9)	0(0)	34(100)					
表3-2 内容:同じ地域に住む人同士の交流の場								N=34人	人(%)
大いに思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計					
12(35)	20(59)	2(6)	0(0)	34(100)					
表3-3 内容:ふくしあについて知る機会								N=34人	人(%)
大いに思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計					
11(32)	20(59)	3(9)	0(0)	34(100)					
表3-4 内容:自分の住む地域の現状を知ること								N=34人	人(%)
大いに思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計					
17(50)	17(50)	0(0)	0(0)	34(100)					

該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	■承認番号 (240033) □該当しない		
利益相反	■なし □あり ()		
発表状況	種 別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他 ()	
	年月日	2025 年 10 月 29～31 日 (□確定 ■予定)	

【2024 年度地域連携事業費報告書】

表 4 自由回答

・いろいろな意見が聞けてよかったです。
・今回は地区の役員が多いと思うが、我々の子供世代の意見が聞きたいと思う。
・理想を実現させるために、ふくしあ頼みになるのではなく、地区の中から行動に移す人が出てくるとよい。
・前は難しく、とても無理と感じてしまいましたが、皆さんのアイデアを知ると少しでもできることもあり、地域でやれそうかなと感じてきました。
・多様な意見があり参考になった。
・たいへん良い。
・皆さん大変協力的でよかった。
・自身の住む地域のことを考える良い機会となった。
・盛り上がりましたね。良かったよ。
・二時間以内で終わりたい。
・半信半疑に集まっても前向きな意見が出てくるので、自発的に、意欲的に集まることができれば素晴らしいと思いました。
・最後は誰がやるの？というところで停止してしまうのは残念に思う。
・最初はやるのが分からなかった。二回目は内容が分かった。3回目のまとめが必要だと思われた。
・問題や課題を洗いだして、実現までのイメージを話し合えることはよかった。
・地区でも実施してみたい。
・最初は正直めんどくさいなと思っていましたが、自分の住む場所についてみんなで考えて、一つでも行動につながればよいなと思った。
・自分の住んでいる地区でもやって欲しいです。指導していただいたことがよい結果につながったと思う。
・色々な話が聞けて楽しかった。
・問題点は色々出るんですが、具体的なアイデアがなかなか浮かびませんでした。
・皆さんの意見が大変素晴らしい意見でした。でも最後は誰が実施・行動するのか？金額はどこから出せるのか？大きな問題だと思う。
・中間層の年齢の方々が出席していた方がよいと思う。
・時間が長い。土日の午前中などを希望。
・今回出た上位の案件は10年以上前から言われていることで、市側でも十分検討していると思われるので意見を聞いてみたい。
・どれも実行できない用。
・イラストを描くことによって、絵が得意な人を知るきっかけにもなりました。行政だけだと考えられないアイデアもたくさん出てとても参考になった。
・たくさんの意見が聞けて良かった。
・PTAの方もご参加があるとより良いと思います。より深い話し合いができて、夢も語れてよかったです。実際に実行できるところまで考えて下さって嬉しいです。
・住民の方が日頃どのように地区をみているのかが分かり、とても勉強になりました。また、課題策も住民の方々自身で考えているので、主体的な地域づくりにもつながるかなと思いました。
・住民自身が地元について考え、実行するまでの過程の中で、自分の知らないことを知ることができたり、真剣に考えることで、本当に変わることができるのではないかなと思った。良い機会となった。
・これからの千浜地区をより知るためには必要なことだと思う。グループワークでは新たな一面を知ることができ、良かった。
・これからの地域活動に活用していこうと思う。有意義な会合でした。行政、地域が協働で前進すればと強く思います。
・参加すればいろいろな意見が聞けて楽しいですが、流石に時間が長くて疲れました。参加人数をこの6割に絞って進めたらどうでしょうか。

N=39

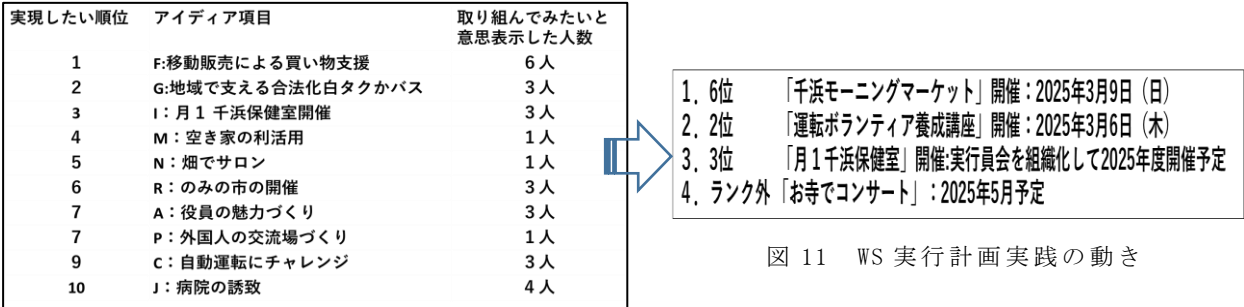


図 11 WS 実行計画実践の動き

図 10 WS 実行計画の中で取り組んで見たい項目への意思表示者

5. 地域との連携の成果

本事業の目的は、掛川市地域包括ケア推進課事業である「地域元気の WA!」を地域の課題を解決する取り組みにまでに発展させることであった。WS 手法を活用することで、住民が主体的に地域の課題を明らかにし、課題解決策を考え、実行計画、計画の一部実践するまでに至った（図 11）。

【考察・今後の課題】

今回の「南部大東ふくしあ」千浜地区において実行計画実施までに至った背景には地区活動に積極的に取り組んでいるキーパーソンの存在が大きく影響していた。今後は実行計画実行委員会などを結成させ、役員ではない地区住民の積極的な参加に向けた取り組みが必要となる。同時に、このモデル事業を他の「ふくしあ」にどのように波及させていくかについても課題である。

該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	■承認番号 (240033) □該当しない		
利益相反	■なし □あり ()		
発表状況	種 別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他 ()	
	年月日	2025 年 10 月 29～31 日 (□確定 ■予定)	